

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100400		
法人名	有限会社 シルバーケア夢		
事業所名	グループホーム サンサン丸		
所在地	沖縄県那覇市首里末吉町3丁目60番地1		
自己評価作成日	令和2年9月4日	評価結果市町村受理日	令和2年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail/022_kani=true&JigyosyoCd=4790100400-00&ServiceCd=320&Iype=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和2年 10月 12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○温かい手作りの食事を3食とおやつを提供している。また食事を利用者様の状態に合わせて提供することができる。味覚、嗅覚、聴覚などの五感を刺激して食欲をそることができる。利用者様の体調に合わせて、栄養状態を把握し、高たんぱくゼリーやエンシュアキッド等の補助食品を提供。ご家族や主治医と連携し、身体向上の維持を図ることができる。
 ○好きな時に入浴することができる。
 ○外出の機会が少ない昨今、雨の日以外の毎日の散歩を欠かさない。外出することで身体機能を高め、気分をリフレッシュし、昼夜逆転を防ぐことができ、夜間良眠に繋がる。
 ○外出が少ない分、利用者様と職員が共同で家事全般をこなすことが増えた。(清掃、食事の準備、食事の片付け 洗濯物の取り入れや衣類の片付け、個室の片付け等)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は同法人の通所介護や住宅型有料老人ホームが入っている複合施設の2階部分にあり、国道から出入りしやすい位置に立地している。近隣の保育園園長が運営推進会議に参加したり園児たちとの交流も月1~2回ある。また、隣接のマンションに元職員や民生員が居住しておりボランティアや緊急時等の協力が得られている。今年度は職員を増員し、休暇や休憩時間の確保ができており働きやすい環境づくりに努めている。昨年には事業所独自の理念を全職員で見直し新たに作成した。特に「絆」を意識し、家族との絆が途切れないよう行事への参加や細かい報告等を継続している。食事も重要視し、利用者の要望を取り入れメニューを決めて、毎食3食とおやつは職員が利用者と共に調理している。行事には重箱を手作りしたり、外食で雰囲気を変える等の工夫もしている。音楽療法を取り入れ、利用者の好きな音楽を個別に聞いてもらう事で声量が出たり体内の酸素量が適正値になる等の効果が出ている。利用者への入浴アンケートを昨年・今年と実施し利用者個々の意向に沿った入浴支援を実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年、新しい理念づくりを職員全員で行った。どのような事業所にしたいか、どんな介護をしたかなどを話し合い新しい理念づくりに活かした。	前年度に管理者と職員が話し合い、事業所独自の理念を新しく作成した。介護＝お手伝いではなく、グループホームとしての役割を考え、多数の意見から共通する言葉を取り出した。中でも理念の中心である「絆」を意識し、特に家族との絆が途切れないように家族への連絡を密に取ったり、事業所での行事や盆・正月には自宅に帰宅してもらう等、日々のケアの中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員や那覇市地域包括支援センターとの連携や近隣保育園との交流している	近隣には他法人の保育園があり、園長が運営推進会議に参加したり園児たちとの交流も月1～2回ある。また、隣接したマンションには、元職員や民生員が居住しておりボランティアや緊急時等の協力が得られている。ここ数年は学生のインターシップや美容学生のボランティアを積極的に受け入れていた。コロナ禍明けには地域包括支援センターと協力し認知症サポーター講座の開講も計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年、那覇市地域包括支援センター松島と連携して認知症サポーター養成講座を行う予定だったが、コロナウィルス拡散防止のため、延期となった。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルス拡散防止のため、職員以外の関わりが少なかったため、活かされていない。	今年度はコロナウィルス感染拡大防止の観点から運営推進会議の開催の方法を職員のみにした。文書での報告等で工夫している。平常時は利用者、家族、行政、地域代表、知見者と構成員が揃った状態で開催しており、議事録は事業所玄関にファイリングして閲覧できるようになっており、構成員から質問も多く飛び交い事業所の様子を伝えることができている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	那覇市グループホーム連絡会に参加し、ケアの実情や困難事例を話あっている。	市担当者には事業所の運営推進会議に出席してもらう他、定期的な市のグループホーム連絡会にも出席してもらい、グループホームの現状を伝えている。研修などの案内はメールで受けている。事業所では共用型の通所介護の運営を検討しており、市担当者も参加している市のグループホーム連絡会で参加者から助言や意見をもらっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関を施錠しない介護の実践を行う。身体拘束や権利擁護について、話し合い、虐待・身体拘束防止への取り組みを行っている。また事故再発防止対策委員会を開催し、身体拘束等の訂正化のための指針に基づいて取り組みを行っている。	身体拘束等の適正化のための指針が整備され、法人にて身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を設置し3ヶ月に1回開催している。運営推進会議にて委員会の報告をし、職員は県のグループホーム連絡会の研修や業務ミーティングで身体拘束について学んでいる。夜間帯のみセンサーを使用していた利用者について職員全体で話し合い現在はセンサー不使用でケアできている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケース会議で虐待の定義やヒヤリハットで事例検討をしている。また法人内研修でグループワークを行い、虐待の芽を摘み、意識を高めるように努めている。3カ月に1回、虐待・身体拘束防止、事故再発防止対策委員会で話しあっている。	虐待防止対応マニュアルが整備され、3ヶ月に1回、身体拘束等適正化のための対策を検討する委員会と併せて虐待防止についても話し合われている。職員は議事録を閲覧し、業務ミーティングで利用者への適正なケア方法について話し合っている。管理者は職員の疲労やストレスを解消する為に、新しい職員を採用し増員し職員の休暇取得や休憩時間を確保する等工夫している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会や勉強会の参加及び開催		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、ご家族様が納得いくまで話し合う		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様にアンケートを行い、ニーズに応えている	全利用者に対して食事や入浴についてのアンケート調査を実施し、利用者の要望で食事メニューにパンや麺の日を設定したり、入浴の回数や時間帯を個々の好きなタイミングにする等ニーズに応えている。家族とは面会時や病院受診時に面談にて直接話をしている。物品の購入等の依頼は家族の要望により日中帯に行なうなど工夫している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を反映させる仕組みを作っている。互助会の行事の参加を呼びかけ、働きやすい職場の環境づくりに努めている。	月1回の業務ミーティングで職員の意見を述べる機会を設けている。職員の休憩室がなく、事業所の収納も少ない為、職員の休憩室兼倉庫の設置を計画している。職員からの意見で、利用者の状態に合わせてパート職員の勤務時間を調整し業務の改善を図っている。また、利用者が重度化していることもあり、リクライニング式のシャワーキャリーや電動ベッドの購入もしている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	産休や育児休暇の導入、超勤や処遇改善等を賃金に反映させ、職員が向上心を持って働けるように努めている。	全職員年1回(夜勤者は2回)の健康診断を受けている。例年は法人互助会の行事や事業所独自の飲み会を実施しているが今年度は感染症拡大もあり自粛している。今年度は増員のため職員を新しく採用し、年次有給休暇や希望休の取得、休憩時間の確保ができています。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や勉強会等の開催		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県認知症グループホーム協会の理事に就任し、同業社との連携や交流を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかり行い、ニーズに掘り起こし等、時間をかけて御本人様の話を傾聴している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントをしっかり行い、ニーズに掘り起こし等、時間をかけて御本人様やご家族様の話を傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問診療や医療機関との連携、薬剤師や薬局とも連携を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントやケアプランの作成、ケース会議等で検討している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスを行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と利用者様の関係性が途切れない様な支援を目指している。お正月やお盆の際には、利用者様が帰宅できるように支援や援助を行い、ご家族様との絆を大切にしている、	入居前のアセスメントを実施し、利用者個々の生活環境や生活習慣を把握し、家事が得意な利用者は入居後も掃除や洗濯、食事の準備や後片付け等興味があることを継続できるように支援している。また、ドライブの際は利用者の自宅付近を通ったり、事業所に元職場の人が面会に来る等、馴染みの人や場との関係継続に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出時に利用者様がお互いに気遣い、車イスを押したり、手を差し伸べる様子がある、		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にはカンファレンスを行い、地域に繋いでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネ					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	きめ細かいアセスメントを実施している。	入居前に管理者とケアマネジャーが自宅訪問しアセスメントを実施し、入居後は事業所独自の12項目のきめ細かいアセスメント様式を用いている。一昨年から音楽療法として希望する利用者の好みを個別で聞き取った音楽をヘッドフォンで聞いてもらうことで、音量が大きく出ようになったり、体内の酸素量が適正な数値になる等の効果が出ており、看取りケアにも取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	きめ細かいアセスメントを実施している。利用者様の希望により、TVや鏡台の持ち込み、お仏壇等の持ち込みなどを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定、体重表、排泄チェック表、支援経過表等を記録することで、日々の体調管理を行うことができる。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員はもとより、医師、看護師、訪問看護師、ご家族様やその他関係機関と連携を行っている。	入居1ヶ月間は介護計画を実施しながら見直しをしている。その後は介護認定期間更新時や状態変化に合わせて計画を作成し、居室担当制にしている。担当者会議には利用者・家族・居室担当者も出席し、必要時には主治医が参加している。月1回のケース会議にて介護計画変更や利用者の状態変化について職員全体で情報共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務ミーティングやケース会議等で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援や個別支援、お正月やお盆の帰省、日々のお散歩等、行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今回はコロナウィルス拡散防止のため、自重している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて、病院受診に同行し、日々の経過を報告している。また体調不良や急変した場合には主治医に書面や口頭で報告し連携を図っている。	入居前からのかかりつけ医の継続がなされており、訪問診療5人、通院は4人で基本的に家族が同行し、家族では説明の困難なケース(状態変化のある場合)などは職員も同行して、主治医へ状況を口頭や書面で説明するなどの支援を行っている。定期的に歯科衛生士による口腔ケアを受けている利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約し、日常的な健康管理の把握に努めている。。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院側にカンファレンスをお願いし、医療連携を図っており、急変時には同行し利用者様の状態の報告してしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書の中に重度化した終末期に向けた看取りの指針を明記し、利用者様およびご家族様に同意を得ている。医師や医療関係者を含めたカンファレンスを行い、終末期に向けた取り組みを行っている。	入居前に利用者、家族へ終末期における指針を説明し、同意を得ているが、その後も2～3年後に主治医を交えて家族と話し合い、終末期の対応に取り組んでいる。職員のデスカンファレンスや家族とのブリーフケアを行い喪失感に出来る限り寄り添えるよう心掛けている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡先やご本人の状態、薬の内容をファイルに作成し緊急事態に備えている。また119への通報訓練や緊急時のマニュアルに沿ってロールプレイを行い慌てることがないように備えている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内に水や電気、10日分ほどの食糧など備蓄するシステムがある。年に数回防災訓練や避難訓練を行い非常時に備えている。	今年の2月、8月に法人全体での訓練を行い、更に1月にはグループホームのみで夜間想定訓練を行っている。備蓄は、約10日分の食糧と水、ソーラーパネルを利用した電気の備蓄も行われている。半年毎に備蓄品を使いラーメンなどを食事に取り入れ、賞味期限切れを防いでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務ミーティングやケース会議等で検討し、職員間で話しあっている。オムツや下着が見えるところに置かない等プライバシーに配慮している。また利用者には、わかりやすく丁寧な説明を心がけている。	個人情報保護方針、利用目的は、グループホーム入口に掲示され、運営推進会議議事録も閲覧できるように整備されている。調査訪問時は食事時間であったが、本人のペースに合わせ、ゆっくりと柔らかな口調で食を促し食事介助を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や外出を利用者様の意向に沿うよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間を基本的には決めているが、その日の体調や気分等、利用者様のペースにあわせて調整している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切り、整容、髭剃り等の支援、理容室との連携を図り定期的な支援を行っている。また美容介護も行っており、女性の方の髪型や顔の保湿パック等を行う。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	五感で感じる食事の提供を心掛け、台所で利用者様と一緒に食事作ったり、香りで食欲をそそるような支援、また目で楽しむことのできる盛り付けなどの工夫を行っている。	職員全員で、3食手作りの食事を提供している。食事アンケートを行い、利用者希望の麺の日を設けている。温かい食事を提供する事に重きを置き調理の苦手な職員も動画を見ながら楽しんで取り組み、利用者と一緒に食事をしている。下ごしらえ、下膳、食器洗いを役割として引受けている利用者もあり、残存能力を生かしたケアが行われている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事介助、声かけや数回に分けて提供する等の食事支援、また配膳の工夫や水分量が足りない場合は、ゼリーやエンシュアリキッド等提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの実施、訪問歯科との連携、舌苔の除去の方法や歯間ブラシに方法を歯科衛生士さんからの口腔指導を受けている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を作成、記録している。声かけや時間案内で排尿をコントロールしており、排便についても医師と連携しながら、お薬の調整を行っている。	一人一人に合わせた排泄パターンを把握し、時には同性介助で個別ケアを行ったり、自立排泄が可能な利用者や自立排泄を希望する利用者には必要以上に支援せず、出来る事はやってもらうよう見守りを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質、イモ類などバランスの取れた食事の提供やおやつ提供、またヨーグルトや乳製品を取り入れ、便秘にならないように工夫している。また散歩など軽い運動を行い対応している。利用者様の状態に合わせて、食事の形態を普通食、アチビー、キザミ、ペースト等に分け提供している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には3回だが、利用者様の体調や気分にあわせて、自由な入浴となっている。	入浴は週3回となっているが、本人の希望に応じて、入浴日や入浴時間を決めたり、受診予定に合わせる等の配慮をしている。浴室での安全なケアの為、職員の意見を基にリクライニングシャワーキャリーを取り入れている。入浴についてのアンケートを取った結果、浴槽を希望する方がいなかった為、現在はシャワー浴のみとなっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様が安心・快適に休まれるように居室内の温度調整したり、足浴する等、入眠するまで寄り添うなど対応している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬箱と服薬チェック表、マニュアルを作成し、二人チェック体制や誤薬や飲み忘れがないように服薬管理を行っている	6月に誤薬があったがその後は、与薬までの4回のチェック体制を作り、従来の薬ケースを見直して横型にするなどの工夫を重ね、近隣のグループホームのフローチャート等も参考に全職員で再発防止に取り組んでいる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に食事作りや食器洗い、洗濯物たたみや室内全体の清掃など、日々の生活の中に取り入れて、ご自身の役割として感じて下さっている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との関係性が途切れない支援を心がけている、	以前は、月の半分の外出支援を行っていたが、コロナ禍の中、近隣へ2、3人での車椅子での散歩を継続している。外出する事で、利用者のストレス解消を図り昼夜逆転の生活改善にも繋がるため、家族一緒に遠足を今年も計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行っていない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には好きな時間に電話をしてもよいが、現在は手紙のやり取りや電話をできる利用者様が少ない		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様のお好きなものを居室に持ち込みしていただいている。安心できる環境に努めている。	4階建ての2階部分がグループホームとなっているが、傾斜地に建てられている為明るく風通しも良く、330号線からの交通の便も良い。洗濯物干しを利用者と一緒にいる際、裏口から隣の保育園の子供達と声掛け笑いあったり、リビングのゆったりしたソファや思い思いの場所で寛いだりしている。玄関には季節感のある飾り付け(調査時はハロウィン)がされており、室内で小型犬によるドッグセラピー効果も得られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で一人でTVを観られたり、利用者様同士で歌を歌うことができる。ソファをいくつか置いて、一人になるスペースもあり配慮している。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が好きなものを居室に持ち込み、リラックスできる環境づくりに努めている。家族写真やラジオ、TV等がある。	各居室にベッド、タンス、防災カーテン、冷暖房の備え付けがあり、利用者が自宅で使用していた家具や家族写真が持ち込まれている。状態に応じて電動ベッドへの変更も可能で、居室入り口には利用者本人と職員と一緒に作成した表札が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	徘徊がある方には、椅子に名前を貼り付け、自分の場所がわかるようにしており、自分がここにいるのもいいと感じていただける工夫をして喜んでもらっている。トイレの場所がわからない方は、トイレの前にお部屋を移動し、トイレと理解できることで、放尿や失禁を防ぐことができる。		